



提督ち×ぽが二本に増えたら
～俺達の乱交執務記録～

基本CG枚数14枚
本編270枚 セリフなしVer118枚



ある朝……

目覚めたら『俺』が
二人になっていた

そりゃあ驚いたし
そりゃあ慌てたさ

一周回って
冷静になるくらいだ

最初は夢かと疑ったが
どうにもこれは
現実のようで……

だから俺と俺は今
まったく同じ顔を
突き合わせて朝から
途方に暮れていた

どうやら……
お前は本当に俺と
同一人物なんだな

まったくもって
意味不明だが
そのようだな……

しかし……
どうしてこんなこと……?

そんなこと俺が
知るわけ……



あつ

俺達は同時に
声を上げた

そうか……
あれだ……

昨日飲んだ
明石の新薬！

またしても声が
完璧に重なった

あれ以外に
考えようがない

俺達は我先に部屋を出ようとして
扉の前で肩と肩を押しつけ合う

おい邪魔だぞ！

俺はこの鎮守府の
提督だぞ！
偉いんだぞ！

うるせえ
邪魔はお前なんだよ！

俺だってそうだよ！
控えろこの間抜け！！

結局
二人揃って廊下に転げ出た
俺達は競い合うようにして
明石の部屋へと走った



おい明石い!

わっ?
なんですか提督?

朝から大声
出したり……なんか
え?

明石の目が見る見るうちに
丸くなっていった





え？ ええ！
て 提督が二人い！？

ふ 双子だったんですか？

どうせまたお前の
妙な薬のせいだろ！

違うわ！
朝起きたら俺が一人
増えてたんだよ！

妙な
失礼ですわね！

提督が最近お疲れだ
って言うから
わざわざ秘蔵書を漁
って
とっておきの栄養剤
を作ったのに！

調合だ
って完璧です！
私の仕事にミスは
ありません！

嘘
つけ

工廠でしよ
ちゅう
ミスしてん
じゃねえか

あ
あれは
そう
いうもの
なんです！

と
にかく
見て
ください
これ！



明石は頬を膨らませながら
棚から秘蔵書とやらを
引っ張り出してページを開く

すると直後に
その表情が強張った

なんだ？
どうした？

……ごめんなさい
間違えて分身薬を
作ってしまったようです

アハハハ……

お前ええええ！





だ 大丈夫!
この本によれば
七日も経てば自然と
元に戻るそうですよ!

七日って
一週間もか……?

それまでこの偽物は
どう扱えばいいんだよ?

はあ?
ふざけんな

女お前!

俺が本物で
お前が偽物だろが



は
—————



なあ明石？
そうだろ？

俺が本物だよな？

え？

なに言ってるやがるの
俺が本物だつづの

よく見ろ明石
こいつよりも
俺の方が男前だろ？

えええ……？
どええ……？
どつちも同じ
顔ですよ……？



むむ……
じゃあわかりにくいから
暫定的に俺を提督1号

そして
お前を提督2号と
呼ぶことにしよう

呼称を分けるのには
賛成だがどうして
お前が1号なんだ

普通は偽物が
二号だろう

なにをお？

あーもう
いちいち喧嘩しないで
くださいよ

じゃんけんで決めれば
いいじゃないですか



よし、いいだろう

本物が偽物に負けるわけないからな

抜かせ、吠え面かかせやる

行くぞ!
じゃんけん ほん!

あいつでしょー!

あいつでしょー!

あいつでしょー!

あいつでしょー……

あいつでしょー!

あいつでしょー!

気が遠くなるほどの
あいこ合戦を繰り返し
最後に勝ったのは……

よおっしやあ！
俺の勝ちだ！

やっぱり俺が
本物の提督なんだ！

はいはい
喧嘩しないの

じゃあとりあえず
右の提督が1号さん
左の提督が2号さん
って
ことでいいですね？

ぬくっ……！！
ふんっ！！
たかだかじゃんけん
に勝った程度ではしゃ
ぎやがって
恥ずかしい奴だぜ

2号

1号

ところで……
二人とも気づいてます？

ん？
何をだ？

さっきから
股間が膨らんだ
ままです……

お？ おお……
そういえば今日はまだ
朝勃起処理して
もらってなかったな

つうわけなんで
明石 頼むわ

へ？
私ですかあ？

!?

今日の秘書艦は
私じゃないですう

でも提督の性欲処理は
秘書艦の役目じゃないですか

なんだよいいだろ？
初めてってわけじゃ
あるまいし

細かいことは
ないじゃないか
ぐへへ…



そもそも
お前が妙ちきりんな薬なんぞ
作ったんでこんな面倒なことに
なったんだぞ

う……
もうこんなときばかり
息びったりなんだから

わかりましたよ

そのお詫びにちんぽ
しゃぶるくらいは
当然だろなあ？

ああまったく
その通りだ



俺達は素早く
ちんぼを取り出して
左右から明石の口元に
ずいっと突き出した

うわあ
もうガチガチ...

むわあ...

ズイ

明石
わかってるな？

本物の提督である
俺のちんぼから先に
ご奉仕するんだぞ？

明石
こんなアホの言うこと
聞く必要ないぞ

お前が好きだから
しゃぶればいいんだ

そしてそれは
もちろん俺だよな？

もー
左右から同じ声で
ごちゃごちゃ言わないで
ください

ちゃんとして二人とも
気持ちよくして
あげますから

ちん……ちゅぶ♡
ちゅ♡れろ……♡

ごっ
ごっ

♡ごっ♡
♡ごっ♡

♡ごっ♡
♡ごっ♡

明石は両手で一本ずつ
陰莖を握り扱きながら
ふたつの亀頭を交互に
舐め回す

く
しち
ちやく
いら
くら
ます
……
♡

は
は
は

は
は
は

ち
ん
じ
ゅ
……
ち
ゅ
っ
ゅ
♡

二
ん
ん
……
二
本
あ
る
か
ら
……
お
ち
ん
ち
ん
の
ニ
オ
イ
が
い
つ
も
よ
り
ず
つ
と
濃
く
て
……

い
い
い
い
い
い

い
い
い
い
い
い

どうだ明石？
俺のちんぼの方が
美味しいだろ？

ちんぼ

ちんぼ♡

シクシク♡

シクシク♡

いやいや
俺のちんぼの方が
いいに決まってるよな？

どっちも同じ
ですってば……んちゅ♡

んちゅ♡

んちゅ♡

自分の艦むすに……
片っ端から手を出してる……
悪いおちんちんの味です……♡

ちゅむ♡ ちゅ

シクシク♡

いやあ だって
なあ……？
みんな可愛くて
魅力的な子ばかり
なんだもんな？

そうそう
それに片っ端って
わけじゃないぞ
まだ手を出してない子が
たくさんいるんだ

まだ ねえ……

まったくもう
色に狂うのも程々にして
くださいよ……じゅちゅ♡

おい明石
そつち長いぞ

俺のも啜えてくれよ

やかましい
お前は一人でセンスリ
こいてりゃいいんだよ

明石は俺んだ

ふざけんな
俺の女に決まってるんだろ

明石の
初めての相手だって
俺なんだからな!

寝ぼけんな
そりゃ俺のことだ!

んろ

ぽ

ぽ

ん

ん

もお
なんですぐに
喧嘩するんですか

二人同時なんて
したことないから
ただでさえ大変なのに

だってよ……

だってじゃ
ありません

面倒だから
もうさっさと
いかせちゃいますよ



じんじゅるるう
じゅぶつ♡♡

どゅーいーい

んぢゃい

ぢゃい♡

しゅーい

しゅーい♡

お おほっ……
いいいぞっ
明石も乗ってきたな

身体 熱いだろ?
涼しくしてやるぜ



あんっ♡
もう勝手に脱がして…♡

んれりゅ…♡
じゅぶっ♡
じゅぶっ♡

ぐっ
凄えバキューム…!!

さ
さすが口搾艦だぜ

ちゅみ

じゅるん
じゅるん

しゅるん
しゅるん

ぶるん

変な渾名つけないで
ください…ちゅぶ♡

あっく……
やべっ……!

どうした?
もういきそうなのか?

お前の方こそ……
息が荒いじゃねえか……!

お前の方こそ……

だーから……
自分同士で意地張ってないで
早く出しちゃってくださいよ

ちゅっ♡ちゅっ♡
ちゅっ♡ちゅっ♡

しゃん
しゃん

くわ
くわ

んんん

んんん





んんっ♡
んんっ♡
んんっ♡

んっ♡
出たあ……♡

あ
明石……!!
出るっ!!

しゅわっ♡
しゅわっ♡

びゅん♡
びゅん♡

んんっ♡
んんっ♡

んんっ♡
んんっ♡
んんっ♡

おおお
出る出るっ

明石のお口に
どぶどぶ出てるぞお

んぐ
つつ
♡♡
んく
つつ
♡♡

んもお♡
毎日……
出しまくってるくせに……

どうしてこんなに……
濃いのが出るんですかあ♡

どぶどぶ

どぶどぶ

どぶどぶ

どぶどぶ

どぶどぶ

どぶどぶ



わかってます♡
こっちのおちんちんも♡
ちゅぶ♡ちゅるる♡

あ明石!
俺のも……

私のお口で……
お精子吸い出しちゃうん
ですから……♡

ドゥ……

ぐっ……!!
いやらしく亀頭に
吸いつきやがって……!!

びゅん
びゅん
びゅん

ん♡ん♡

ん♡ん♡



ふう……
よかったぞお明石

ああ……
しゃぶるのがまた
上手くなったよなあ

はあ

はあ

精液か
っこんだ……♡

はあ♡♡
はあ♡

どろ〜♡

二人分の精液に塗れた
明石は二本の逸物を
握り締めたまま艶な
吐息を繰り返していた

はあ……
ただでさえ性欲魔神の
提督が二人なんて……

私のせい
だけと……

この一週間
大変なことに
なりそうだなあ……

明石は口の端から
垂れた精子をぺろりと
舐めた



わ…………

二人に増えた俺達を前に
吹雪は呆然と呟いた

最初に話を聞いたときは
冗談だと思ってましたけど……

それが冗談じゃ
ねえんだな……

俺自身が一番
驚いてるっての

ほ 本当にお二人とも
司令官なんですか？

そうだよ

自分が増えるとまさか
こんなに疎ましく思うなんて
驚きだよ ったく

こっちのセリフだ

なんでもかんでも
俺と同じ言動かまし
やがって

頭の中を覗かれてる
みたいで気持ち悪いぜ

だ駄目ですよ
喧嘩は

司令官同士なんですから
仲良くしましょうね？

はい
編成指示を
お願いします

わかってるよ

それでえっと……
今日の攻略予定海域は
リランカ島の方面だったか？



そうだな
駆逐艦を旗艦として

随伴には重巡を
二人置いて

三式弾を装備

それで制空のために
空母も二人だな

火力不足を補うために
雷巡を一人……っておい

さっきから俺の編成基準を
パクってんじゃねえぞ

ああ？
お前が俺の真似を
してんだろが！

俺達の間割り込んで
吹雪が叫んだ

や
やめてくださああい!!

なんだと
この不細工が!

やんのか
この粗チン野郎!



司令官と司令官が
喧嘩しているのは
悲しいです……

お願いですから
仲良くしてください

吹雪は目尻に涙まで
浮かべて懇願した

それを見た俺達は
二人揃って「うっ……」と
言葉を詰まらせる



わわ
吹雪 わかったよ
俺達が悪かった

あああ
お前の言う通り
仲良くするからさ

はい……

女の涙には敵わん

吹雪の前でこれ以上
唯み合うわけにもいかず
俺達は分担して今日の
編成方針を決めることにした

くさん……



よし……
これで演習と遠征の
メンバーも決まったな

そうですね

じゃあ時間も
余ってることだし……

俺達を顔を見合わせた
矢張り考えていることは
同じと見える

さっき明石に口で
抜いてもらったが
あの程度じゃ物足りないぜ

吹雪 おいで
セックスするぞ

え……い
今
ここで
ですか？

秘書艦の務めだろ？

わわわわ
わかってますけど
でもお……

吹雪は俺達を
交互に見比べた

どっちの相手を先に
すればいいのか
迷っているらしい

俺達は再び
視線に火花を散らせた

俺が1号なんだから
先に吹雪とやらせて
もらうぜ 文句ないな

ふざける
単に区別するためだけの
呼び名にそんな特権が
あつてたまるか

や
やめてくださああい!

うるせえ
俺が先だ!

俺だ!
俺が先に吹雪と
やるんだよ!



お二人とも一緒に構いませんから喧嘩しないでください

二人一緒になって……お前ってんのか？

はい……三人でしましょうか？

どちらかの司令官を後回しにしたくはないので私の身体をお二人で好きに使ってください……



俺達はこくりと
生唾を呑んだ

こんな華奢で可愛い
女の子を大の男が
二人がかりでとか……

そ そんなの……

あまりにも
背德的すぎるっ

その姿を想像するだけで
俺の股間は瞬く間に
固くなった

俺は2号より一瞬早く
動くと吹雪を抱き込んで
即座に逸物をぶち込んだ

ピクン

し 司令官の……♡
いつもより大きいです♡

ふあああ……♡

ズ
ン
ン

まったく吹雪は
変態だなあ

二人がかりで
犯されると思っ
興奮してんのか？

お前のおまんこだっ
いつもより濡れてるぞ

ちっ
出遅れた……

2号はペニスを扱きながら
吹雪の背中側に回って

でもまあ……
こっちの穴も
悪くねえよな
吹雪
いいんだろ？

は
はひ♡

ドキッ
ドキッ

ズイ…

吹雪の
ケツ穴にも
司令官のおちんぼを
突っ込んでください♡

俺達を喜ばせるために
わざと下品な言葉を
使う辺りがいらしい

おほっ
きつつう……!

んんっ♡
んーっ……♡

は入って ます♡
おひりにも……
司令官の 太いのが♡

ああ……
吹雪のケツまんこに
ずぶずぶ入ってるぞお

びん

ズブッ

ヌググ

前の穴の締まりも
よくなつて……
こいつはいいや



俺達はそれぞれのもので
それぞれのを力強く
犯し始めた

ほーら
奥まで
入ってるんぞ

ひあっ♡あっ♡
あああっ♡

お おちんちんがっ♡
中で……こりこり
擦れてえ……♡

こんなの……
しゅごすぎ ですよ♡

んんん

ぬい

んん

ずちゅ

づちゅ

んん

んん

普通は吹雪くらい年齢で
二穴攻めなんてされたら
壊れてしまいかねないが
さすがは艦むす

一般人よりも丈夫な身体が
こういうときにも役に立つ

おっ！

もっ！
鳴け！

ひおっ♡
ぐううん♡♡

気持ちよさそうだなあ
吹雪？

まんことアナルを同時に
穿られるのがそんなに
気に入ったのか？

ズンズン

ずしょ

づしょ

ピッピッ

ピッ

は
はいい♡

だ 大好きな司令官に♡
前と後ろから同時に
愛してもらえるなんて♡

ふ 吹雪は♡
とっても♡
幸せです♡

たはた

たはた



んあ♥ あっ……
あひ いいん♥

し しれい かん♥

こ こんなに
気持ちよくしたら
わ たし もう♥

びん♥

びん♥

ブルブル

ズブズブ

ズブズブ

お? もうアクメ来そう
なのか?
いいぞ
好きなときに
トんじまえ

俺も一緒にイって
やるからな……!

こっちの穴にも
たっぷり出して
やるぞお……!!

二穴同時中出しで
最高に気持ちよく
イきたいだろ?

ひゃい♥
イきたいれす♥

はんにゅん

はんにゅん

はんにゅん

おまんこにも♥
おまゆ穴にも♥
けち官の濃ゆいお精子を
司令どびゅどびゅ出して♥
どびゅどびゅ出して♥

おまんこに♥

おまんこに♥

はんにゅん

はんにゅん

はんにゅん



ピクン

ピクン

あー

あー
ピクン

おふっ……!!
な 中イきまんこ
やっべ……!!
搾り取られる……!

出て……ますう♡
子宮にも お尻にも♡
司令官の熱々おちんぼ汁
注がれちゃってますう♡

ドクン

し尻穴も……
ぎゅうぎゅうに縮まって
ちんぼを締めつけやがるっ

ドクン
ドクン
ドクン



あああ……
あ……あ……

未だに絶頂の最中なのか
虚ろな瞳をした吹雪は
がくがくと断続的に身体を
震わせていた

しゅこ
ここんなの……
忘れられませ……

ゴブ

ゴボ



吹雪……
まだ意識が定まってい
ないところに悪いが……

こんなもんじゃ
終わらないぞ？

次は俺が尻まんこを
使わせてもらうんだからな

ふえ……♡

ドキッ

前の穴には俺のを
ぶち込んでやる
もちろん最後は
膣内射精だ

あうっ……♡

奇しくもというか
なんとというか
俺が二人になったことで
艦隊指示の労力は半減した

普段は日が暮れるまで
続くこともある執務が
今日は夕方前に終わってしまい
暇を持て余した俺は夕飯までの
時間の潰し方を考える

さて
どうするか……

仕事上がりだし
鳳翔さんのところに行って
ちよいと飲んでくるかな

そう思って第一歩を
踏み出した瞬間
2号が俺と同じ方向へと
歩き出した

……なんだよこら
ついてくるんじゃねえよ

あ？ 節穴か？
俺の方が半歩前に
出てるだろ

後を追ってきてるのは
お前の方だよ

んだとお？

どうせ目的地は
同じなのだろう

先を越されまいと俺達は
競歩でぐいぐいと歩き
最後には駆け足で
鳳翔さんの店に向かった

俺達はまたもや同時に
店舗内へと足を踏み入れた

ごめんなさい
まだ準備中...あら

提督でしたか
いらっしやいませ

鳳翔さんの店は宵の口から
丑三つ時までが営業時間だが
俺に限ってはいつ訪れても
歓迎してくれる



ふふふ
話には聞いていましたが
本当に一人増えて
しまったのですね

いやまったく
いい迷惑ですよ

立場上は俺が上司なんだが
どこか母親めいた雰囲気を持つ
彼女にはついいた敬語を
使ってしまうんだよなあ

俺がペーペーの頃から
世話になってるのも
理由のひとつかもしれない

席に着くと鳳翔さんは
手作りの突き出しと
俺が好む日本酒を二人分
カウンターに並べた

えっと……
どっちが1号さんで
どっちが2号さん
なんででしょう？

あ 俺俺
俺が1号です
そしてこいつが
偽物の2号ね

見るからに
まが好物っぽい
顔してるでしょい？

ははは
すみませんね鳳翔さん

こいつときたら
二言目には数字を主張する
小さな男でまったく
恥ずかしいもんですよ

お二人とも
負けず劣らずの
男前ですよ

もう
自分同士で
貶し合っ
てどうす
るんです
か

貴重な機会
なんだし
兄弟が
できた
と思っ
て楽し
んだら
いか
がで
す？

いやいや
鳳翔さん
の方が……

どう見ても
こいつより
俺が……

兄弟い

鳳翔さんは
おっとりとして微笑んでいた

あらあら
以心伝心ですね

兄弟か……
よし
わかった

おう そうだな
飲み比べて負けた方が

ああ 負けた方が
弟ってことで

異論なし！

で結果は
どうなったかというところ……
当然のように引き分けだった

うえー……

ぐあー……

まだ夕飯前だったのに俺達は
べろべろに酔っ払ったの
カウボーイに突っ伏したまま
ソウピみたいに呻いていた

くそ……
ここまでやって
決着つかずかよ……

つつか眠い……
飲みすぎた……



もう
だから言ったじゃ
ないですか
それくらいに
いておいた方が

鳳翔さんの呆れ声が
どこか遠くに聞こえる

ほら 立てます？
お布団用意しましたから
お座敷の方に行きましょう

あ……



俺は鳳翔さんの肩を借りて
どうにか立ち上がった

顔をカウンターに押しつけたまま
半ば眠りに落ちていた
置いたまま俺と鳳翔さんは座敷の方へ

さ
どうぞ

ん！……
布団……？

ああ……
そっかなるほど……
セックスですね！

きゃ！？

俺は鳳翔さんを
畳に押し倒すと
高速で服を剥ぎ取った

ちよ ちよっと提督
困ります いきなり……

いっ今 酔い覚ましを
持ってきてますから

遠慮しないで！

俺とシたいから
こんなところに
連れ込んだんでしよう？

鳳翔さんのお誘いなら
もちろんですよ！
オーケーですよ！

んじゃ……
早速挿れちゃいますね……

あっ……
まってください……

くぱあ



ふわあああん♡

あゝ

あゝ

おほっ
きつきつだ……!!

最近 鳳翔さんとは
ご無沙汰だったからなあ

がんがん抉って
すぐに俺の形に戻して
あげますね……!!

あゝ

あっ♡♡
あっ♡♡
あん♡♡
あん♡♡

ここんな……
いきなり激しっ……♡

ももお……♡
いつも……
乱暴なんですからあ♡

鳳翔さんのおまんこが
気持ちよすぎるからだよ

こんな具合のいい穴に
挿れたら乱暴にも
なりません……！

ずっしん

ずっしん

ずっしん

あ

あ



先に突っ込んだもん
勝ちなんだよお

へっ
そんなの知るか
ばーかっ

ずぶん

ずぶん

ずぶん

抜け駆けたぞお!

おまえーっ!
なに鳳翔さんと
やってんらよお!

振り返ると赤ら顔の2号が
千鳥足で座敷に近づいてくる

背後から突然の
叫び声

あああああーっ!

はげしい
せい

ふあ



スッポ
アッポ

スッポ

スッポ

はあ
はあ

ほらほら
鳳翔さん

俺のちんぽで犯されて
気持ちよくなってる顔
あいつに見せてやりなよお

はっ
恥ずかしい

あーぐへへ
恥ずかしいがってる
鳳翔さん可愛いなあ
ちんぽがどんどん
固くなっちゃうよお





スッポ
アッポ

スッポ

アッポ

みんない
やうにしたら♡

あ
あ
あ

こおらああ
俺も鳳翔さんと
やらせろよおと

などと言いな
ながら2号は
座敷に上がる
のにも苦勞し
て地面でぐた
ぐた回っている

その滑稽な姿に
俺は大笑いだ

ケケケ
お前はそこで鳳翔さんが
俺に中出しされんのを
指啜えて見てなあ

んんん

んんん

だ駄目です
提督♥

おまんこ中出しは
駄目え……♥

うへへ
駄目って言われへも
出ししちゃうもんね

俺の特濃孕ませ汁
鳳翔さんのメス穴に
せーんぶ……

全部……全部……
あつ！ イぐう！

やあっ♥

んんん

んんん

ズン

ズン

ズン

ズン



ああっ♡
ああっ♡
ああっ♡

な生なのに……
本当に中で……♡

こんなにくさん
出されたら……
わたし妊娠……♡

まだまだ
ケツコン前なのにい♡

あはははは

あはは

あはは

んんん♡
んんん♡

んんん





それ
らめえ……♡
射精しながら
おちんちん
動かさないで……♡

てんあ……♡
提督……

んんん
んんん

あ
あ

ふおおおおお……!!

気ン持ちいいい……!!
鳳翔まんご最高おお

あ
あ

あ
あ

おらあどけえ!

うわああ?

突如として横合いから
突き飛ばされて俺は
畳の上を転がった

暴挙を働いた2号は
俺のことなど一顧だにせず
鳳翔さんの両足を抱えて
猛り狂う男根を陰裂にあてがう

ま
待ってくださ……♡

そんな……
三人連続なんて……
少し休ませ……♡

たっぴん!

↑…

はー

はー



おちんちんか
またか……し

いやあああん♥

おちんちん

懇願虚しく鳳翔さんは二本目の
ちんぽの侵入を許してしまったの

その光景を前に俺は
意外なほど穏やかだった

というか
酔いと射精後の脱力感のせいで
もうほとんど身体が動かかねえ

ズブズブ

まったくもお……

鳳翔さんってば
俺以外の男にちんぽハメられて
あんなにアンアンよがって……
シヨックだなあ

どどっちも
同じ提督ですよお♥

同じじゃないかい！
俺の逸物の大ききくて
気持ちいいだろう？

だから
同じですよ♥♥

ずん

ずん

ずん

あーっ

あーっ

あーっ

ほら！ほら！
俺の方が気持ちいいって言え！

あー
あー

またーんーん

いっ

ひゃう♡うっ♡
そこ やめ入……♡

さっき 出されて
イって……び 敏感に
なってるんです♡

そ そんなに
されたら……♡

ああ♡ 駄目っ♡
おまんこきゅんきゅん
してしまいます♡

ずん

ずん

ずん



じんじん

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

そんな嘘
通じませんよ!

だってほら……
おまんこが明らか
種付けして欲しがる!

ずん

ずん

ずん

うおっ おっ?
なんだこの締めつけっ

鳳翔さん
そんなに中に出して
欲しいんですか……!!

ち 違い♥ ます♥

そ 外♥
外に出して♥



ただ出されちゃう
提督の雄臭い子種汁が
またおまんこに♡

鳳翔さんって
清楚なように見えて
案外スケベなんですわえ

もうサーメン欲しくて
しようがないって
顔してますよ？

してませ……♡
あっ♡ おちんちんが
震えて……♡

ぱちゅん

ぱちゅん

ぱちゅん
ぱちゅん

んんんん

んんん

んんんん



なかつ♡
出てますう♡

ふあ♡ ああん♡

ひんひん

あゝ

ひんひん

あゝ

ああああ
イクイクイクイク!

出すよ鳳翔さん!
子宮で受け止めて!

いん

いん

いん

あああ……俺の金玉で作られた精子が引鳳翔さんの赤ちゃん部屋に越ししてるよお……

ほらっ？ わかる？

ひゃひ♥ いん♥

トプン

お興っ♥
ぐりぐりらめ♥
イイクの……
止まらにゃ……♥

ぐり

ぐり



うひひ
鳳翔さんに中出し
してやったぜえ

受精するときはあ
ちやんと俺の種で
選んでくださいねえ

そそんなの
わかりません……♡

そもそも……
同じ人の種でしょう♡

おっ
おっ


はー
はー

はー

かっ

ほっ





その後
酔いが覚めた俺達は
二人が良くお説教を
食らったとき

就寝時
私室のベッドをどっちが
使うかで俺達は揉めに揉めた

二人で寝ることは十分に
可能なサイズのベッドだが
何が悲しくて野郎と添い寝
しななければならんのか

と
じ
俺
寝
る
こ
と
に
決
ま
っ
た
と
い
う
わ
け
で
熾
烈
を
極
め
た
じ
ゃ
ん
け
ん
勝
負
の
結
果
俺
が
ベ
ッ
ド
で
2
号
が
ソ
フ
ア
で
寝
る
こ
と
に
決
ま
っ
た

そ
し
て
…
…
日
付
も
変
わ
っ
た
深
夜
頃
俺
達
の
部
屋
に
忍
び
込
む
ひ
と
つ
の
影
が
あ
っ
た

ガチャ…

ワオ♥

俺は半ば夢の世界に
浸かりながらその声を
聞いた

提督のペニス……♥
眠っていても……♥
遅しいデース……♥

ちゅちゅ♥
ちゅぶ♥
ちゅちゅ♥
ちゅう♥

なんか……
気持ちいいぞ……

誰かにちんぽを
しゃぶられ……って

ちゅ♡

ちゅ♡

……金剛か

ハイ提督♥
あなたの金剛デス♥

二日も会えなくて
寂しかったヨー♥

ちゅー……ちゅ
ちゅ♥ちゅ♥

ぷり♡

金剛はじゃれつくようにして
男根の先端にキスの雨を
降らせまくった

ぽろ

ぽろ



金剛は一昨日から
姉妹達と一緒に他の鎮守府へと
合同演習に出ていたのだ

この様子だと
帰投してから直行で
俺の部屋に来たらしいな

もう寝るつもりだったが
女の方から求められたが
断るわけにはいかん

寝起キなせ
カッコーいいデース♡

チーッ♡

ったく……
帰ってきて早々に
男のちんぽをしゃぶりに
来るとは……

オ……
ノーサンキュー
ですか？

まさか
俺好みのエロ女になって
くれて実にグッドだぞ

ほら
もつとしゃぶって
大きくしてくれよ

そしたらお前の
まんこにぶち込んで
やるからな

ハ
ハイ……♡

だ だって
あのときは……♡

時間と場所を井えてって
言ったのに提督ってば
強引なん德斯から……♡

ははは
懐かしいな

抜かずに三発
中に出してからの
お掃除フェラだっけか

でも 金剛だった
結局は乗り気だった
じゃないか

む

ちゅぽ……♡

と そのとき……

金剛の背後にゆらりと
人影が忍び寄った

2号だった

既に奴は肉棒を曝け出しており
「また抜け駆けしやがって
この野郎」とその目は言っていた

2号は
金剛のパンツを素早く
ずらして後背位の
姿勢を取り……

ぬんんん

突如として膣穴を貫かれた金剛は大きく目を見開いて叫んだ

あつ

ああああアアアッ!?

ズチャーン

ズン

ふん

!?

だワツツハッブ……!?

そそこは提督しか挿れちゃ……って

ホワアアアアイ!?

振り返った金剛は驚愕の形相だ

ぬっぴん

ああ そっか
お前
演習に行ってたから
知らないのか

ど どうして提督が
二人いるデース!?

色々って
なんデース!?

これはだ
なんというか……
色々あって
分身しちゃったんだよ



ピル

まあ細かい説明は
後回しだ!

今はそれよりも
お前に子宮にザーメン
注いでやる方が先決だぜっ

ズル
ズル

イク

アウツ♡

んあ♡ あっ♡
あんっ……♡
ここの形……♡

ほ ほんとのほんとに
提督のペニス……♡

あ

ん



金剛
こっちの方が
お留守になってるぞ

ハイ……♡

んぶ……♡♡

じゅる♡

ズル
ズル
ズル

イク

ん

ここの味も……
やっぱり提督の
ペニス……デス♡

ま前にも……♡
後ろからも……♡

提督のおちんちん♡

ここんなの……♡
ハッピーすぎるヨ……♡

ん♡

んじゅる♡♡

んじゅる♡

ずぶん
ずぶん

ずぶん

^^……
金剛のまんこ
いつもよりもずっと
具合がいいぜ……!!

マジ?
そんなに?

ああ めっちゃ
締まりやがる……!!

みんなそうだったけど
二人がかりで犯されると
興奮するもんなかね?

艦むすつてのは
どいつもこいつも
スケベ娘ばかりだぜ

ほいほい
んんん



んじゅぶ♡
ちゅるる♡

んあ……アツ♡
いいヨオ提督♡

もっともっと
ワタシのヴァギナを
犯してくだサイ♡

ナカに……♡
ナカにおちんぼミルクを
早くぅ……♡
欲しいデース♡

ぐっ……
胸にきゅ……

ぱん

ぱん

ん

ん

ん♡

ん♡

ん♡

ちちくしよ……
挿れたばかりだったのに
もうイカされ……!!

つたく!
このドスケベまんこが!

そんなに欲しけりゃ
お望み通り出してやるから
責任持つて孕みやがれ!

ハみハイ♡
孕みマスう……♡

提督のザーメンで
ワタシをママに
して……♡

ワタシも
イっしょ♡

んっ♡

んん
んん

んん

んん



ピュッ

ピッ

んっ

んっ

んっ

んっ

て 提督のスペルマ……
ペリーホットネ……♡

こんなの……
おまんこ火傷しちゃうヨ♡

どぶ

どぶ

ピク

ひゃあああ……♡

おいおい
俺を忘れてもらっちゃ
困るぜ金剛

こっちも出すからな!

ガム

ひん

びん

あ
あ
あ

ワタシ……身体の
中も外も……
提督のでドロドロ……♡

しゅ しゅいデスう♡

ひん

最後の一滴まで金剛に
顔射をした後に俺は
一息つく

もちろん顔に出した程度で
終わるつもりはない

俺も金剛のメス穴を
堪能させてもらわないとなあ

金剛
次は俺の番だぜ
まんこに挿れるからな

じゃあ俺は
ケツ穴いただくとするか

ワッ………?
それって同時……

ちょ ちょっと待っ………♥



びんぽんぽん

あふ

あふ

俺達は金剛を前後から
抱え込むと遠慮なく
ふたつの穴に肉槍を
突き刺していく

ひぐっひぐっひぐっ
ひぐっひぐっひぐっ
ひぐっひぐっひぐっ

ぐぐぐ

とちんっ

アナルの方も
ぎちぎちに締まって
最高だぜ……!!

ほほお……!!
確かにこいつは……!!
いつもよりいいなあ

ほらっ
動くぞ金剛!

あひっ♡
アッひん♡
アア♡

ガルッ♡

んあ♡

んあ♡

ガルッ♡

ぬゅ♡

ぬゅ♡

ヌルッ♡

俺達は交互に腰を振って
金剛の二穴をリズムミカルに
犯し始める

これまで俺と一対一での
セックスしか経験したことのない
金剛からすればこれは
未知の快楽なのだろう

吹雪と同じように
くっそエロい顔で
喘いでやがらあ

どうだあ金剛？

お前の大好きな俺のちんぽが
前と後ろの穴にすっぽり
入ってるぞお

生まれて初めての
二穴攻めの感想は
どうなんだ？

あ

はっ

いい……デスう

あ

あ

あ

こんな……
ワタシの知ったら
もお……

時間も場所も関係なく
提督達のペニス求めてしまう
ようになっちゃうネ……

はぐっ♡♡
中で♡♡ 擦れん♡♡
あ……ん♡♡
んお♡♡ おん♡♡

ぐちゃ♡

ぐちゃ♡

ぐちゃ♡

ぐちゃ♡

あーあー
なんちゅう下品な
エロ声出してやがる

こんなの妹達に
聞かれたら長女の威厳が
なくなっちゃうな？

ノオオ……♡
言わないで……♡
ぐださい……あひん♡

あひん♡

あひん♡

比叡や榛名や霧島も
二穴ファックされたら
今の金剛みたいにな
アヘりまくるのかな？

試してみてえなあ……？

ずん
ずん

あちん

ん

ずん

あ

ん

ん

ん

あ
あうう……♡

へっ
お姉ちゃんぶってるが結局は
俺達のちゃんぽを独り占め
したいだけなんだからお？

そ
駄目 そんなの
デース……♡

ワタシが
相手をしますから……♡
妹達には……♡

まったく！
この欲張り長女が！

あっ♡
あっ♡
あっ♡

ずん
ずん

あらん

ん

ずん

おら！ おら！
まんことケツ穴同時に
挟られるの気持ちいいか！

は はひイ……♡

き 気持ちよすぎて……♡
もう♡ イクの止まらなっ♡

オルガ♡ スムスう♡
ずっ♡と♡続♡いて♡マ♡ス♡う♡♡

ほう
そうかそうか

じゃあ
そんなイキっぱなしの状態
二穴同時中出しなんて
されたらどうなるのかな？

ふえ

ドク
ドク

ウ
ってウエイト……
待ってくださいっ♡

さあ出すぞお
奥の方に思いっきり
ひり出してやるからな！

ふえ……？
そ
んなこと
されたら
ワタシ……♡

あ
ん

あ
ん

あ
ん

あ
ん

俺達の絶頂に合わせ
金剛の身体がびくりと
大きく跳ねた

くふう……
アクメまんこやっべ
もつと出してやるぞ

クゥ
クゥ
クゥ

あー……尻穴縮まりすぎて
ちんぽ持ってかれそうだわ……!!

彼女の体内でふたつの
脈動が断続的に響き
金剛の股ぐらから滝のような
量の精液が流れ落ちてくる

おまんこ
おまんこ

あ
あ

ビク
ビク

あはあ……♡

あはは……♡
あはは……♡
あはは……♡

ドロ……♡

んほ♡

んほ♡

俺達の射精が終わっても
金剛はしばらく口も利けぬほどに
息を乱したままだった

しかしながら俺の
そして2号の逸物は
未だに金剛の中で隆々と
勃起していて
まだまだ鎮まる気配がない

俺の精力の強さは
この鎮守府の艦むすなら
誰もが知っている

ましてや金剛は
その筆頭だ

金剛……

その呼びかけだけで
すべてが伝わったようだ

イ……イエス♡

ん♡

もっともっと……
ワタシとラブセックス……
しましようネ……♡

夜はまだ始まったばかりであった

翌日

俺が分身してから
一夜が明けたわけだが
人間ってのは何事も
慣れるもんなんだよなあ

なんだかんだ言いながらも
俺達は今日も二人で
執務に当たっていた



そーいや海防艦の
新入りが来るのって
今日だったな？

資料どこに
仕舞ったっけ？

お前が覚えてないなら
俺だって覚えてないなら
決まってるんだろ

なんだよ
使えねえなあ

お前だけには
言われたくねえ

俺達は罵り合いながらも
手分けしてその資料を
探し出した

沢捉と 松輪……

これが新しく艦隊入りする
海防艦の二人か……

めっっちゃ幼女だな……

だな……

送られてきた資料を見た
俺と2号は顔を見合わせて
ヘラヘラと笑った

ま まさかお前え
こんな小さな子にまで
手え出そうなんて
言うんじゃねえよなあ？

そ そんなまさかだろお
いくら可愛いっつっても
なあ？

そっ そうだよな
はっ はっ はっ

は は は は はっ……



ひっ……はひゃ♡

あ♡ ああ♡

あっ♡

ひくっ♡♡
んあっ♡♡
あんっ……♡
あああ♡♡

はっ♡

ひっ♡

まあ……
やっぱりこうなるわな

だってこの子達
お人形みたいで
超可愛いんだもん
しょうがないね

グン

グン

グン

グン

ああっ
択捉ちゃんの幼女まんこ
最高だよお……!!

こりゃあ
腰止まんねえわっ

ほーら松輪ちゃん

キミのちっちゃな
おまんまん大人ちんぽが
ぶっすりだよ?

ちんちんずぼずぼ
気持ちいいねー

すっすり

すっすり

すっすり

すっすり

し司令♥
おちんちん
強すぎですう♥

これこんなに
されたりや……
え 択捉はあ……♥

びん
びん

我慢しなさい！
これが我が鎮守府の
歓迎スタイルなんだよ！

新入りの子は提督ちんぽを
お股に挿れて精液をどびゅどびゅ
出されなきゃ駄目なんだ！

お腹
変になっちゃう

あふい
ん

す
びゅ

す
びゅ

す
びゅ

す
びゅ



松輪ちゃんは
偉いねえ
もうおちんぽに
馴染んだのかな？

ひゃひゃい♡
司令のおちんちん
とっつても気持ちいれす♡

もっと松輪のおまんこに
ご挨拶してください♡

このおドスケベ幼女め！
望むところだ！

んんん

すっぴん

すっぴん

すっぴん

すっぴん

お股
お股
お股

おう
そっちのまんこの
具合はどうよ？

抜群に
決まってるんだろ！

こんな窮屈な穴は
初めてだぜ……！

あま……
早く……

ああまったくだな！
ロリオナホ万歳だ……！

海防艦は最高だぜえ……！

どきどき
どきどき

ドム
ドム
ドム



どうだい 扱捉ちゃん？

キミもそろそろ
ちんぽでおまんこ穿られるのが
快感になってきたんじゃないか？

はい♡
いしゅこく♡
いですう♡

ドキッ
ドキッ

え 扱捉♡
あっといいう間に司令の
おちんちんが大好きに
なっちゃんいまひた……♡

いんー
可愛い返事だ
可愛いねえ

もっと犯したく
なっちゃうよ！

どろろ♡

どろろ♡

どろろ♡

ズン♡
ズン♡
ズン♡

ズン♡
ズン♡
ズン♡

んん♡
んん♡

んん♡



くろう……！
松輪ちゃんのロリまん
堪んねえぜ……！

今からこのちっちゃな
メス穴に種付けできると
思うと暴発しちまいそうだっ

った たねづけ……？
なんれすかあ？

ああ
キミは難しいこと
考えなくていいんだよ
今はただ俺の
ちんぽケースとして
頑張ろうね！

ふん

あゝ

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

おーおー
二人ともすっかりちんぽ大好きの
ロリビッチになっちまいやがって

あっひんっ♡
はう♡
好きです♡司令のおちんぽ♡

びゅん

イトム
イトム
イトム

びゅん

ひうっ♡
おちんちん♡
おちんちん……♡

イトム
イトム

大人ちんぽでハメられるのが
そんなに気に入ったのか？
なんて悪い子達なんだ！

なあ こんな悪い子達はも
本氣中出して孕まされても
文句言えないよなあ？

違えねえ

提督としてしっかり
躰けてやるためにも
ここは当然孕ませ射精だな！

なか だし……？
はらま………？

聞いたこともないであろう
言葉の連続に松輪ちゃんが
お目々をばちくりさせている

しかしそんな疑問は
すぐに快楽で押し流されて
松輪ちゃんは淫らなメス声を
上げた

すっぴん
すっぴん
すっぴん

すっぴん
すっぴん
すっぴん

あ あの……
司令……♡

沢提達は……
わ 悪い子……
なんでですかあ？

ああそうだよ

キミ達はガキのくせに大人ちゃんぽで
犯されて気持ちよくなっちゃうような
いけない子供なんだ

その罰として
今からこのおまんこに
お仕置きちゃんぽミルクを
注入させてもらう いいね？

は はいっ♡

すっぴん♡

すっぴん♡

すっぴん♡

すっぴん♡

すっぴん♡

ほら復唱！
松輪ちゃんも！

ひゃっ♡



こえ
扱捉達のは♡
子供なの♡

大人の人のおちんちんで
気持ちよくなっちゃう♡
わ 悪い子♡...ですう♡

だ だから♡
おまんこにお仕置き
してくだしい♡

お仕置きちんぽミルクで
悪いおまんこを懲らしめて
くら...はいっ♡

司令♡

司令...っ♡

ほんっ

ほんっ

ほんっ

ほんっ
ほんっ

ほんっ

ほんっ

ぐわん

ほんっ

ぐわん

ほんっ

ほんっ

ぐわん

ぐわん

はやくしよ

あつ♡
あ♡
あー♡
あー♡

松輪の中♡
いつぱい出てりゅう♡

べし

ひん

あひっ
ららっ
うっ♡

おまんこっ♡
あちゅい♡

どん

どん

どん

どん

びん

びん

びん



おっほおお……!!
すげえ食いつき……!!

膣内射精でしっかり
中イキとか将来有望
すぎんだろお……!!

と 止まんねっ
マジ精液止まんねえっ

松輪ちゃんのおまんこ
搾精能力高すぎい……!!

こりゃあ病みつきに
なっちまうかも……!!

ドム

ドム

びゅん
びゅん
びゅん

びゅん
びゅん

びゅん
びゅん

ドム

ドム

俺達はそれぞれの
幼膣に粘っつい種汁を
どっぶどっぶと注ぎ込んだ



ま松輪のおまんこ
びくびくしてました
治りまへん……♡

はあ

はあ

ま松輪も……♡

はあ……♡



ここれ♡お仕置きなのに
凄く悦んじやってるんです♡

はあ

はあ

え 挾提♡
本当に悪い子に
なっちゃいました♡

あひ♡んい♡

じりり……♡

ドキ
ドキ

ああこりゃー
やむを得ねえわ

ドキ
ドキ

おやおや
どうやら反省の色が
まるで見えんようだ

こいつは
お仕置きの続行が
必要だなあ……

はっ
はっ

はっ
はっ

つーわけなんで
キミ達のことまた
ぶち犯しちゃうけど
いいよね？

俺達が問うと
彼女達は期待に満ちた瞳で
「はい♥」と呟くのだった

顔も性格も何もかも
まったく同じ人間なんて
いけ好かないもんだ

きつとお互いに
そう思っていることだろう

だが
分身ができたことで
ひとつだけ明確に得と
言えることがある

それは日々の執務を
分担することによって
ぐっと楽になることだ

そうして生まれた
余暇に俺達がナニを
するかといえば……
言うまでもないよなあ

おおおっ……!!
荒潮っ 荒潮っ!

さっさとイっちまえ
このメスガキ……!!

あん♡
もお……♡

提督ったら
立て続けに二発も
出したのになまだ
元気なのねえ……♡

しかも今日は……
そんなおちんちんが
もう一本♡

んちゅ♡

Wow

んん

んん

んん

んん

れろれろ……♥
れろれろ……♥
れりゅ……♥

おっ おっ……
し舌が尿道に……
入って……やばっ

うふふ♥
やっぱり二人とも
私知ってねえいる♥
提督

おちんちんの
大きさも二オイも
それに弱点もみいな
お・な・じ♥



ほらあ……♡
こっちの提督はもっと
ずんずん動いてくれなきゃ♡

こんなんじゃ荒潮
下のお口が退屈しちゃいます♡

んんん

んんん

ちよつとはよくなった
かしらねえ……♡

そんっ……♡
そうねえ……♡

な
なんだと！

この！この！
これでどうだ！
気持ちいいだろ！？

んんん

んんん

んんん

んんん

くくそ……！
こんなはずじゃ
なかったのに……

この荒潮は天性の才能なのか
誰に仕込まれたわけでもないの
性事となると俺でさえ敵わない
とんでもないメスガキなのだ

しかし二人がかりで挑めば
荒潮にも勝てると思つて
襲いかかったはいいもの……

結果はこのザマ

二人揃って手玉に取られて
絵に書いたような返り討ちだ

もう……
また動きがノロマさんに
なってますよお？

そんなへなちよこピストンじゃ
物足りないじゃない……♡

もっとこんな風に……ねっ♡

うおあ!?!
なんちゅう腰使い……!

あー♡

あーん

せー

あーん

おまんこもごうやっ……♡

あっ
ああ!
しっ
締まるうう!

へへ……!!
駆逐艦に跨がられて
なす術なしとは……
情けねえ奴めっ
し

あらあ♥
そういうあなたも
ちゅぶ……んじゆる♥

あっ……!?

んんん♥
んんん♥

んんん♥

んんん♥

んんん♥

んふ♥
さつきから随分と
息が荒いけどお……

まさか私みたいな小娘に
ちよーつと舐められたい
呆気なくびゅっびゅっ
しませんよねえ♥

あ
当たりまっ……んぐう!

んんん

はあ！ はあ……！

くくそお……！
このメスガキまんこっ
なんでこんな
気持ちいいんだ……！

ももう 出るっ
また搾り取られちまうっ

えー？
もうですかあ？
提督って本当に
早漏さん……！

でもそういうところが
可愛くて好きよ♡

はあ

はあ

はあ

はあ



だ 出すぞ荒潮！
中に出して孕ませるぞ！

いいですけどお……
もしものときは
ちゃんと責任……
取ってくださいなえ♡

と 取る取る！
荒潮とケツコンするから
種付けさせてくれえ！

あっ♡
おちんちんが二本とも
びくびく震えて……♡

びくびく

お 俺も もう……！
荒潮！ 口まんこで
受け止めてくれっ……！

びくびく

びくびく

びくびく

びくびく



たろたん♡

たろたん♡

たろたん♡

たろたん♡

たろたん♡

たろたん♡

たろたん♡
たろたん♡

たろたん♡

たろたん♡



荒潮っ……
荒潮っ！

んっ

んっ♡
んっ♡

んっ♡
んっ♡
んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

うおおおっ……！
荒潮おお……！

うふふふ……♡

上のお口にも下のお口にも
熱いのがいっぱい♡

しかもまだ
ピンピン……♡

これなら
荒潮が満足するまで……
何回でも付き合っ
くれるわよねえ……♡

この後も
めちやくちや
搾り取られた……

あっ♡ ああっ♡
それらめれす……♡
乳首いじりながら……♡
パンパンしちやらめ……♡

んー？
どうしてだあ？

だだっ……♡
気持ちよすぎて……♡
変になっちゃいますう♡

あ♡

そうかそうか

じゃあ変になった潮を
見てみたいからおっかな！
いじめちゃおっかな！

あ♡

パン！

パン！

パン！

パン！

ひゃう♡
そんなに♡

ほれ見ろ
潮はあんなに素直だぞ？

曙も正直にクソ提督の
おちんちん気持ちいですって
言ってるらん？

そっそんなわけ……♡
あっ♡ ひっ♡ ひう♡

や やめえ……♡
お奥……♡
ぐりぐりするなあ♡

はははあ
強がっていてもちんぽには
勝てないほのたん可愛いなあ

ほのたんの
あつな
言う

あんな
ん
パン！
パン！
パン！
パン！

あ あんた達……♥
執務中にこんなことして
いいと思つて……んひつ♥

大丈夫だって
もうとっくにノルマ以上の
仕事が付いてんだからさ

となりゃあ頑張っている提督に
ご褒美のひとつくらいあげるの
ができた秘書艦ってもんだろお？

だから そう思つて……♥
潮と一緒に茶を……♥

お茶よりおまんこの方が
いいに決まってるんだろ！

あっ♥♥
あん♥♥
やんっ♥

ほろ
乳首くりくり
くさるん

はっ

らめす
ふあ

く

く

はん

はん

はん

はん

はん

はん



初めて抱いたときは
あんなに恥ずかしくて
潮も積極的になつたもんだなあ

おーおー
自分からパコパコ
腰振ったりして……

あああっ♡♡
提督♡♡
あっ♡♡
提督う♡♡

う潮をこんな子に
したのは……
提督ですよ♡

あー
ほのぼのと
サイコー!

もあ、

提督提督、
提督よ、

はあ、
はあ、

はあ、

このキモチ♡♡

はん♡
はん♡

はん♡

はん♡

はん♡
はん♡

んー……しっかし
駆逐艦でこのデカ乳

いつ見ても天晴れだぜ

それに比べて……
同じ姉妹のはずなのに
曙ときたら……

な
なによっ

いやまあ
これはこれで可愛くて
いいなあって話さ

み 見え透いたお世辞を
言うんじゃないわよ
このクソ提督う……❤

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん



ああの……あんまり
からかわないで
あげてください……

あ 曙ちゃん
胸のこといつも
気にしてるから……

ば馬鹿っ潮っ
余計なこと言わなくて……んなくて……

ふえ？

ごめんなね曙ちゃん
何か駄目なこと
言っ……あっ♡ひゃう♡

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

もう もう……
潮の馬鹿っ……♡♡

まあまあ暗
潮もお前のためを
思ってたんだから
そうぶりぶりすんなって

それに
おっぱいが大きかろうと小さかろうと
お前達が俺の可愛い艦むすである
ことには変わりないし

今からおまんに
中出しされることにも
変わりないんだぞ？

ちよ……
中は駄目って
いつも言ってるでしょー

おちんちん
膨らませたい

あーあー

あー

アッ
アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

またまた
そんなこと言っつてえ
本当は中に欲しい
くせにさあ

どきどき

ち 違あう♡

う 潮っ
あんたもなんとか
言わないとお……♡

う 潮は別に……♡
提督がそうしたいなら
どうぞ中に……♡

どきどき

ぶ

出しなさい

ももう♡
どいつもこいつもお♡

どき

どき

どき

おし

おし

おし

おし

どき

どき

ひゃ♥ ああっ……
出てますう……♥

提督のお精子が……
潮の子宮にい……♥

いやー
潮は素直でいい子だなあ

そういうことなら
お言葉に甘えて……

おら！ 子供まんこ
孕ませやがれ！

イイイイ

ビクン

あ

グググ

あ
ちゅと

びんぎんぎん

びんぎんぎん

びんぎんぎん





曙！
こっちも出すぞ！

しっかり受け止めて
受精しろよ！

ああん駄目え♥

〜ワ〜ワ〜

〜ん〜ん

〜ん〜ん

あっ♥

ああっ♥

あああーっ♥

できちやう♥

クソ提督の赤ちゃん
できちやううう♥

ああ、
ま……

あーんがーん
えんをす……

ドクドク

ドクドク

ドクドク

びび

びび

がが

がが



駄目って言ってるのに聞く耳持たないんだからこのクソ提督は...♡♡

ま... まったくもう...♡♡

ああ あ...♡♡
しゅごい...♡♡
中に出いれすの♡♡
気持ちいい♡♡

のほ...♡♡

のほ...♡♡

はー♡♡

はー♡♡

ふうう……

駆逐まんこに
たつぶり種付け
最高だぜえ

時間は……なんだ
まだこんな時間か

ああ
あと二回は
やれるな

じゃあ次
俺と潮な

ほのたんは
こっちにおいで



どきどき

潮はまあ
聞くまでもなく……

ははい……❤
提督の気が済むまで
お付き合います……❤

曙ちゃんと……一緒に❤

ドキドキ

とか何とか言いながら
やらせてくれるんだらお
このツンデレ娘が

はあ？
まだするつもりなの？

もう……
今度からサル提督って
呼んだ方がいいかしら

う
うるさいわね……❤

どきどき

ドキドキ

俺達は時間が許す限り

とっかえひっかえで
曙まんこと潮まんこを
堪能した

俺は曙に四回
潮に三回

逆に二号は潮に四回
曙に三回の中出しを
決めた

なんとも有意義な
昼下がりにあった

第六駆逐隊の四姉妹が
この鎮守府にやって来たのは
つい先月のことだ

その時期は
深海棲艦の攻勢が激しくて
セックスどころではなくなあ

新入りの子には欠かさず行ってきた
「歓迎式」をやっている暇がなかった

それからなんだかんだで
彼女達には手を出すタイミングが
見つからないまま今日に至っている

そのことを俺は
悔いていた

なぜって？
そんなの決まってるだろ

あの子達の大事な処女を
2号に横取りされる恐れが
あるからだよ……！！

俺達は同一人物であると
同時に他人でもある

先を越されるわけには
いかんのだ

そして今日……
長距離の遠征に出ている
六駆がようやく帰島する

俺は早速
行動に出た

ピクッ
ピクッ

ふわっ♡
あああ♡

ほおら入った!

よっしやあぁ……!!
曉ちゃんの処女まん
ゲツトおお……!!

きつつきつつで
堪んねえぜつ……

ずぶずぶ!

ぬぶ

11
5154L



ときどき

あざざざ

しゅわん♡♡♡

こ これで本当に……
暁も一人前のレディに
なれるの……？

いや……
その道程はまだ
半ばってところかな

大人の女性になるには……
ちゃんと中出しまでされないとい

は ひゅ……♡

あ 暁のお股に……♡
司令官のおちんちんが
じゅっぽり入っへ……♡

びん

ぶる

又

びんびんびんびん

アッ

アッ

ふわあああっ♡

にやにこれ♡
にやにこれえ♡

こんなの暁
知らないよおお♡

あーらら
あつという間にトロ顔だ

ほんっと艦むすつてのは
ちよろいよなあ……!!

ぶた丸

ぶた丸

ぶた丸

くくく……
まさか2号も俺がこうも素早く
抜け駆けに出るとは思うまい

悪いが暁のハジメテは
俺のちんぽがいたただいたせえ

気持ちいっ♡

あ♡

あ♡
あ♡

暁の小さな身体を
抱きかかえるようにして
俺はがつつがと腰を打ちつける

成熟した大人の膣に
ねっとり扱かれるのもいいが
未開発の口りまんこを強引に
穿り返すのもまた格別だ……！

ぶた丸

ぶた丸

あ丸

えー？
途中で抜いちゃったら
一人前のレディになれないよ？

いい♡から♡

あかちゆき お子様でいい♡
これ♡気持ちよすぎて……
怖い……のお♡

だから 抜……♡

もう♡らしいめっかんっ♡

あ♡暁……♡
おかしくなっ♡ちやうから♡
おちんち♡♡♡ 抜いてっ♡

ぶっ
ぶっ

ぶっ
ぶっ

カクッ

あー

あー

カクッ

ふにゃあああああ♥

ななんれええ♥
抜いてるのいい♥
ゆ抜なんれええ♥

そう言わずにもうちよっと
頑張りなさい! ほら!

大丈夫大丈夫

戸惑っちゃうのは
最初だけだよ

慣れればこの快楽が
病みつきになるさ!

どちゃ

どちゃ

どちゃ

どちゃ

どちゃ

んんんん

はあ

はあ

さあ！
言ってごらん！

司令官のザーメンを
暁の子供まんこいっぱい
注ぎ込んでくださいって！

ほら！ 言え！

ひゃ ひゃうう……♡

さし 司令官のお♡
ざあめん…を♡

あ 暁のここと
こどもおまんこ……♡
お おまんこに……♡

ずんずん

ずんずん

ずんずん



暁が最後まで言い切るのを
待つ余裕が俺の方になかった

今さっきまで一切の性を知らなかった
ぶに穴で大量の子種汁が弾け
生まれて初めての本気アクメに
幼い少女は酔いしれる



ああああ……♡

ああ 暁のお腹に……♡
何か 出てるよお……♡

これがザーメンさ……!!

大人の女ってのはこいつを
おまんこ穴に出されるのが
何よりも好きなんだよ

おまんこ
おまんこ
おまんこ

バク
バク

暁ちゃんは
どうかな？
気に入ってくれたかい？

う……うん♡

これ 気持ちいい……♡

ドク
ドク
ドク



そういうことなら
もう二三発くらいは
中出しさせてもらおうかな

ふえっ？

ん？ これくらい
平気なんだろう？

も
もう一回っ

そそ そうよっ♡

これくらいなんてこと
ないんだから……

も もっと 暁のおまんこを
司令官のおつきなおちんぼで
じゅぼじゅぼ して……♡

俺は暁の初体験を
存分に楽しんだ

えわ

えわ

うざっ

ええっ

ええっ……



一方その頃…



びびびび

はあはあ

はあ

くはっ……!
こりやまた
きつついなあ……!

んあ……♡
ああ……♡

今にもおまんこから
押し出されそうだ

ピストンするの
も一苦労だよ

ぬい

ぬい

抜けまいように上手く……
ほっけ ぽっ!
おら! おら!

んっ♥ ひんっ……
んんん……♥

ぽっ
ぽっ

ぽっ

ぽっ

ぽっ

んっ

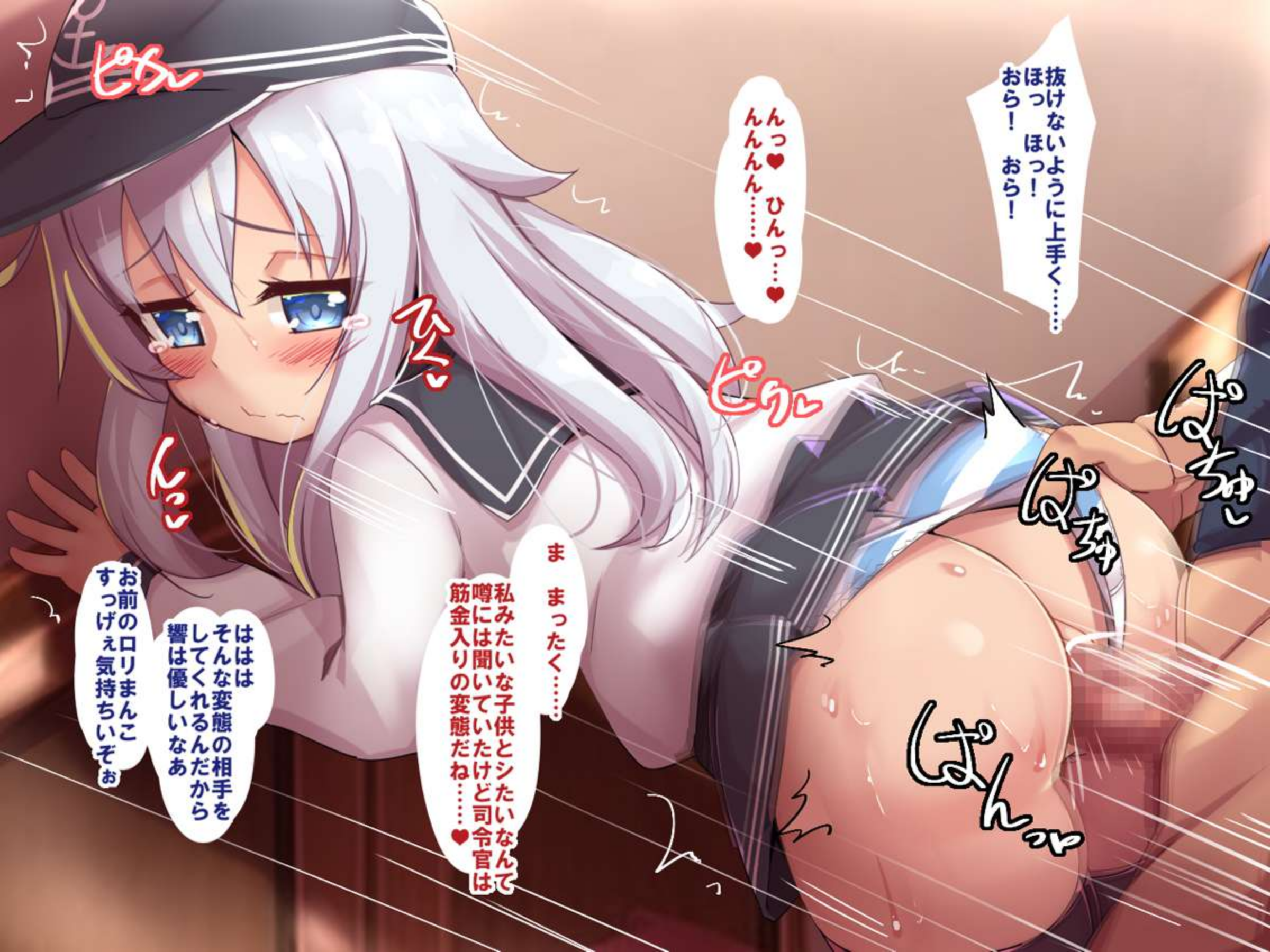
んっ

ま まったく……

私みたいな子供とシたいなんて
噂には聞いていたけど司令官は
筋金入りの変態だね……♥

ははは
そんな変態の相手をして
くれるんだから
響は優しいなあ

お前の口りまんこ
すっげえ気持ちいいぞお



まくく……
まさか1号も俺がこうも素早く
抜け駆けに出るとは思うまい

悪いが響のハジメテは
俺のちんぽがいたただいたぜえ

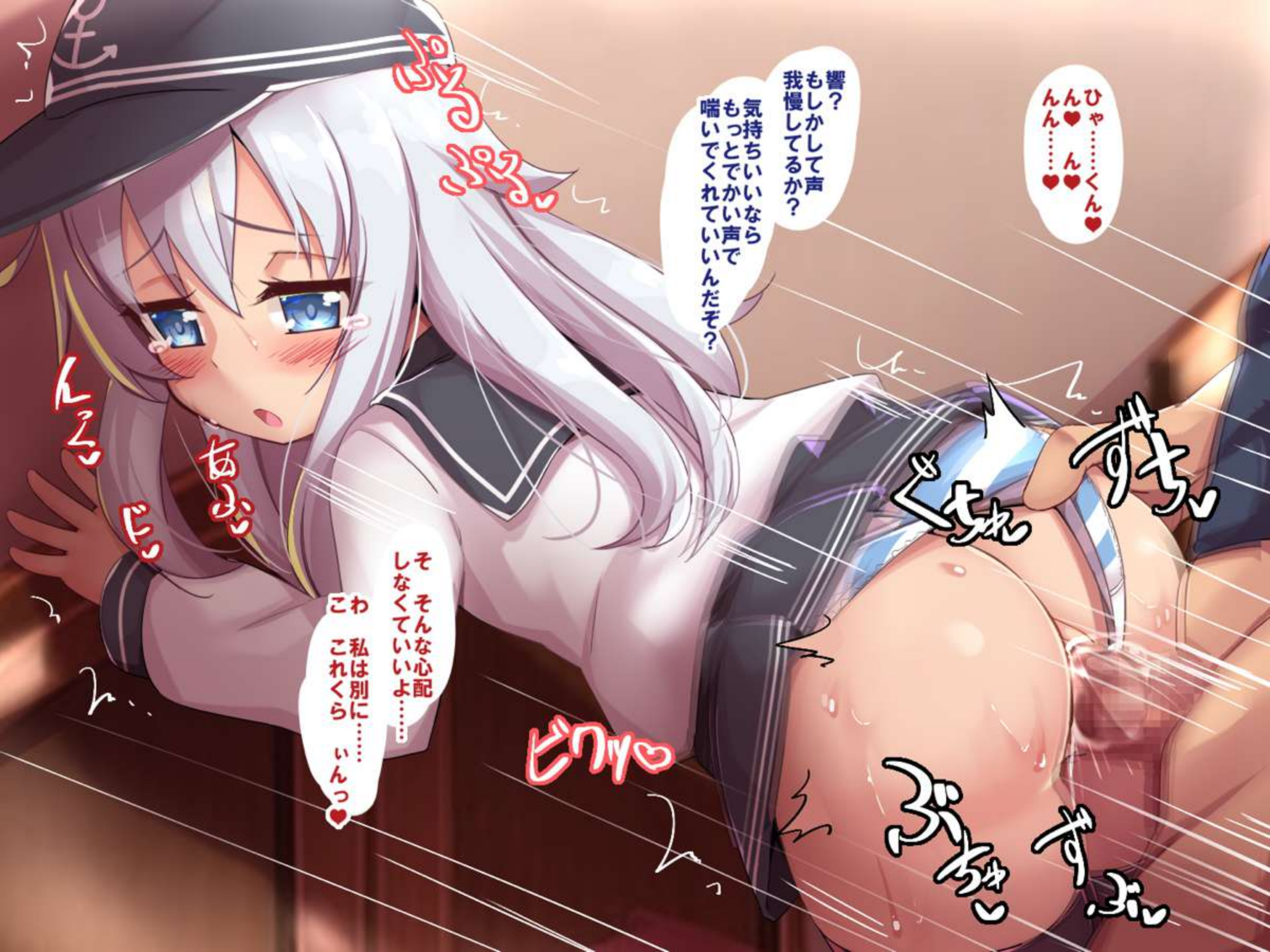
ん
ん
ん

ぐん
ぐん

ぶち
ぶち

響の小さな身体に
覆い被さるようにして
俺はずんずんと腰を打ちつける

艦むすつてのは誰もかもが
ハズレ無しの名器揃いだよなあ
初めて男性器を受け入れたばかりの
響ですらこの具合のよさだ……!!



ひゃんんんん
んんんん
んんんん
んんんん
んんんん
んんんん

響？
もしかして声
我慢してるか？

気持ちいいなら
もっとでかい声で
喘いでくれていいんだぞ？

んんんん
んんんん
んんんん

んんんん
んんんん
んんんん

ずんずん
ずんずん

ずんずん
ずんずん

んんんん

そそんな心配
しなくていいよ……
こわ 私は別に……
これくら いんっ
いんっ



ざしん

ほらほら!
これならどうだ!

ひゃうっ……♡

そう言われると
余計に喘がせたく
なるなあ……っど!

ひあ

びん

んんん

おっおちんちんの
出っ張りが……♡

きっ気持いいとこ
擦っへ……♡

やっ……♡
ああっ♡

ガッ
ガッ

びん

びん

びん

んあ くうん♡

あっ♡ あひいうう♡

おっ
ようやく喉の奥から
可愛い声を聞かせて
くれたなあ

いつものクールな響もいいが
こうやってメス犬みたいにい
よがりまくる響も大好きだぞお

またくっ……♡

んくっ……♡

ほ 本当に……♡
私の司令官は……♡
変態で困……んひう♡

んんんんん

ぐんぐん
ぐんぐん
ぐんぐん

おふ おふ……

つ 突けば突くほど
俺の形に馴染んで……

じゅ 順応性抜群かよ
このちびっ子まんこ……!

子供まんこで
イキそうなんだ……

んふっ
まんこ

んふっ
まんこ

んふっ
まんこ

んふっ
まんこ

んふっ
まんこ

んふっ
まんこ

し 司令官の
おちんぼ……

私の中でびくびく
震えてるね……❤

こ これ……
もうすぐ
イキそうなのかい……?

おるあ！
ボテ腹ロリ妊婦に
なっちまええ！

あっひ……♡

しゃ射精の勢い……
こんにゃに……♡♡

びゅん♡

あ……♡

あ……♡

あっ♡だめっ……
何か来るうっ……♡♡

あ……♡

びゅん♡

びゅん♡





はう う……♡

ここれで……
満足したかい……？

い……♡

プル
プル

ぽぽ

どんー
どうだかなあ

それは俺の愚息に
聞いてくれや

へ あう……♡

まっまだ……
とっっても固い……♡

は
は
は

こんな極上のロリまんに
突っ込んだら
一発出したくらいじゃ
満足なんかできねえってこった

今日は響が
セックス中毒になるまで
とことん犯してやるからなあ

とことんか……♡

ひくっ

へん

やれやれ……
参ったな……♡

などと言いながらも
響の口元には確かな
笑みが讃えられていた



ちん……♡♡
れろれろ……♡

はむ……ちゅ♡
れろお♡

れろお♡

んちゅ♡

ぽろ♡

ぽろ♡



まったく
油断も隙もねえぜ……

俺が貰うはずだった
響の処女がこんな野郎の
ちんぽに横取りされた
なんてよお……

こっちの
セリフだつっうの……

しかもお前
あわよくば電ちゃんや
雷ちゃんのハジメテまで
独り占めしようだなんて
強欲が過ぎらあ

あ？
人のこと言えた
口か おうこら



ちゅ
ぶい
じゅい

ん
ん
ん
ん

もう！
やめなさい！

痺れを切らした
かのように雷が叫んだ

二人とも同じ
司令官なんだから
仲良くしなくちゃ
駄目じゃない

彼女に同調して
電も訴えるような
上目遣いを超越す

そうなのです
喧嘩はよくないのです

あああ……
ごめんよ

別に喧嘩を
してたわけじゃなくてさ

つい数分前のことだった

俺と2号はそれぞれ
暁・響とたっぷり楽しんだ後に
廊下でばったり出くわしのだ

直感的に目的は
同じと悟った

遅れを取るわけにはいかなないと
競い合うように雷・電の部屋を
訪れて……
まあ こうなったわけだ

俺は電ちゃんに
2号は雷ちゃんに
ちんぽをしゃぶって
もらっている

もっつ……
しょうかな……
んだから……♡

おっつ……

しょうかな……
です……

土下座して頼んだら
二人とも簡単に
了解してくれたよ

まったく
ちよろいもんだ

ほらほら
もう喧嘩しないからさ

ちんぽおしゃぶりの
続きを頼むよ 雷ちゃん

こっちも頼むよ
電ちゃん

ん わかってるわ
おちんちんを……
お口で……ちゅじゅりゅ♡

はいなのです……♡
んじゅる♡ じゅぶ♡



くふう……

駆逐艦の小さなお口で
フェラチオをさせる
この背徳感堪んねえなあ

電ちゃんも雷ちゃんも
勃起ちゃんぼなんて見るのも
初めてだろうに一生懸命
ちゅぱちゅぱして……

俺がもうちょっと
若かったらこの光景だけで
イってるところだぜ

ちゅぱい
ちゅぱい

ちゅぱい
ちゅぱい

ちゅぱい
ちゅぱい

ちゅぱい
ちゅぱい



じゅぶっ♡じゅぶっ♡
んじゅるるるる……♡♡

どきどき

はあはあ

はあはあ

んもう……
司令官のおちんちん
凄いニオイよ……♡

ちゃんと毎日
洗ってる？

一応は洗ってるけど……
さっきまで暁と中出しセックス
しまくってたからなあ

やっぱり臭うかい？

いやーごめんよ雷ちゃん
こんなくっさいちんぽ
しゃぶらせたりして

大丈夫……
私が綺麗にして
あげるわ……ちゅ♡

先っぽから
何が出てきた
のそす……



どうだい
電ちゃん？

生まれて始めて味わう
生ちんぼは美味しいかい？

んんん
んんん

もっ

どんどん
臭くなる
じゃない

お 美味しいかどうかは
わからないですけど……

司令官のおちんちんを
舐めてみると……
なんだかドキドキ
するので……
❤️

そうかそうか
それはいい感触だ

はあ
はあ

んじゅぶ♥
んんんん……？
じぶ♥

なにこれ
このお汁……♥

生臭くて嫌な感じなのに
飲み込むと頭がぼうっと
してきちゃう……♥

い電も……♥
なんだかお股がうずうず
してきちゃうのです……♥



へへ……
双子美少女が並んで
フェラしてる眺めは
最高だなあおい

さっき暁のおまんこに
散々コキ捨ててきたばかりなのに
精子がもう上ってきてやがる……

おいおい早漏かよ
俺はまだまだ……あつ

駄目駄目 雷ちゃんっ
そんなに強く吸ったら
精液漏れちゃうって……





あーもう駄目だ！

雷ちゃん！
お口の中に出すからね！

キミの可愛いお顔に
ちんぼ汁ぶっかけるからね！

いっしょ

いっしょ

いっしょ

いっしょ

くゅ

ううん
かけて……♡

司令官がしたいことなら
私はなんだって……♡

こっちも出すよ
雷ちゃん！

いっしょ

ひゃひゃい♡
出してください……♡

いっしょ



んぐうううううんっ♡

んぐんぐ

んぐ

どろどろ♡

んぐんぐ♡
んぐんぐ♡

んぐんぐ♡

あ熱いどろどろが
たくさん……♡

んぐ

んぐ

どろどろ♡

どろどろ♡

雷の顔にはこっぴどりとした
俺のザーメンが降り注ぎ

2号は電の喉まんこに
遠慮なくザーメンを送り込む

どっく

どっく

ああ……♡
司令官のお精子
止まんない……♡

まだまだ出すよお……
雷ちゃんの髪や身体に
俺の精液のニオイを
こびり着けちゃうからね

ほら電ちゃん！
頑張って飲んで！

こんぐっ……♡
んぐっ……♡
んぐっ……♡

ぐんぐん





はあ♡♡ はあ♡♡

はあ♡♡ はあ♡♡

ごし 司令官さんの...
飲んじゃったのです...♡

おちんちんより...
はっ♡♡

それそれザーメンを
受け止め終えた二人の呼吸は
大袈裟なくらいに荒く
その顔色は真っ赤だ

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

白濁塗れの美少女が
二人……うーむ エロい

しかしこの光景を楽しむのも
程々にしないとなあ

早くあっちの穴も使わせろと
愚息がぎんぎんと喚き散らしてんだ

俺は2号とアイコンタクトをして
何を言うまでもなく頷き合った

俺達の思考は当然のように
シンクロしていたのだ



雷ちゃん
こっちゃん
おいで

電ちゃん
はこっ
ちゃん
だよー

ひゃ……？
なんなの
ですか？

へ？
し
司令官？

幼気な少女姉妹は
あれよあれよの間に押し倒され
その股ぐらにいきり立つ肉の棒が
ずいっと突きつけられた

そこで二人はようやく
俺達の思惑を察したようだった

し 司令官っ
せ……セックスも
しちゃう……の？

ちよ ちよっと待っ……
心の準備が
できてないから……

そうだよお
今から俺の大人ちんぽを
雷ちゃんのの小さなおまんこに
挿れちゃうんだ

大丈夫だよ電ちゃん
最初にちよっと痛むだけで
後は気持ちいいだけだからさ

こ 怖いのですう……

はわわ……

どき

どき

はっ

ずいっ

ほーら……
先っほが入ってくよ……

あっ あっ あ……あ……
き 来てる……♡

私 司令官と
セックスしちゃう……♡

ぬっぴっ♡

はわわ……♡

い 電の中にも……
熱くて 固いのが……
押し込まれて……♡

ぬっ

おー
初物のロリまんなのに結構
すんなり入ってくなあ……
やっぱキミ達も淫乱の
素質があるみたいだね

それじゃあ……
姉妹仲良く処女喪失
しちゃおうか！

ぬっ♡

雷ちゃんの
ロリロリおまんこに
ぶっといのが
突き刺さっちゃったね

あひ あひ……
あひ……

ひゃわ……

ほら見て
電ちゃん
根本までしっかり
入ったよお

キミはおまんこまで
頑張り屋なんだね

それじゃあ
動くぞ!

はっはっはっ♡

お おち……♡
おちんちんがぁ♡
雷の中で……
暴れてるうう……♡

ビク、ビク、

んにゃ……ああっ♡
しゃんご……のんち♡

い電は……
まだ子供なのに♡
司令官さんとセックス
しちゃってるのですう♡

ぱん

ぱん

ぱん

ぱん

ぱん。



どうだい
雷ちゃん？

わ
わかんなんっ……♡

もう……

頭 真っ白……♡

雷は蕩けた瞳に
ハートマークを浮かべながら
途切れ途切れに呟いた

これが大人ちゃんぽだよお
キミのおまんこは
気に入ってくれたかな？

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

はあ
はあ

あ
あ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ずっか

ずっか

ずっか

ふええ……♡

はー♡

ち 違……のです♡

い 電は…… スケべなんかじゃ……あっ♡

あんっ♡
あんっ♡
あん♡

あっ♡

奥♡
たましい♡

電ちゃんのおまんこは
随分と積極的だね

挿れたときからずっと
締めつけっぱなしじゃないか

愛液も洪水みたいに
溢れちゃってさあ……

びん♡

びん♡

びん♡

あの純真可憐な電ちゃんが
実はこんなスケベ娘だった
なんて驚きだなあ

ひゃう……あっ♡
あぁっ あ♡ あーっ♡

ももお……らめえ♡
司令官のせつくす
すすこしゆぎるよお♡

ソクゾー

ここんな気持ちいいこと
覚えさせられたら……♡
電達は……♡

おいちんいつも
考えてる……わ
なっちゃんのことばかりに
ちゃうの……悪いう子♡

ズム

ズム

ズム

ズム

ズム

ズム

ふふふ
二人ともすっかり
メスの顔だなあ

は
はへ……？

ふふふ
す……？

でもここまでは
謂わば前置きなんだよ？

一番気持ちいい
フィニッシュが
残ってるんだからねえ

怪訝そうな顔をする二人を
見下ろしながら俺達は
射精に向けてスパートをかけた

雷ちゃん達は
おまんこに精子を
挿れたらどうなるか
知っているかい？

え えっと……
確か 赤ちゃんが……

お よく知ってるねえ

ズン

ズン
ズン

今から
司令官さんに……

も もしかして
電達……

ズン

その通りさ
おまんこの奥の子宮に
精液をどっぶどっぶ
出されちゃうんだよお

ズン

ズン

中出しって言うんだけどね
セックスの中でもこれは
特別気持ちいいことなんだ

と 特別……♡

暁や響も中に出されて
いっぱい気持ちよく
なったんだよ？

だから二人とも気になると
思うんだけどなあ……
さ どうする？

ぐわん

ぐわん

気持ちいい……♡

ぐわん ぐわん

ぐわん

ぐわん

パム

だ……出して♡

に妊娠しちゃっても
いいから♡
司令官の赤ちゃんなら
産んであげるから♡

ドキドキ♡

お おまんこに……
ナカダシ……♡
して欲しいのです♡

電と雷ちゃんを
司令官さん達のお嫁さんに
してください……♡

だ だから……♡

一番気持ちいいの
おまんこにちよーだい……♡

ドキドキ♡

パム

パム

パム

パム♡

パム♡

パム

パム♡

膣内射精を食らうと同時に
初絶頂を迎えた二人は
小さな身体をびくんびくんと
跳ねさせながらオルガスムスに
至ったことを主張する

小さすぎる子宮は瞬く間に
満タンとなったが俺達は
構うことなく中出しを続けた

あ♥ひあ……
ほん とに……
しゅこ……♥

はわ あ……♥
おまんこ……
溶けちゃ……♥

びゅん

びゅん

びゅん

びゅん

あ

あ

びゅん
びゅん

おっほ……
やっべえくらい
出たわあ……

ぽん

ぽん

やっぱり処女まんこ
孕ますのは格別だぜ……

ああ♥ あう♥

出され……
ひやった♥

雷司令官のお精子で
ママになっちゃおう♥

お腹……♥
あちゅいのれす♥

赤ちゃんの素が……
こんなにいっぱい♥

ぽん

はあ

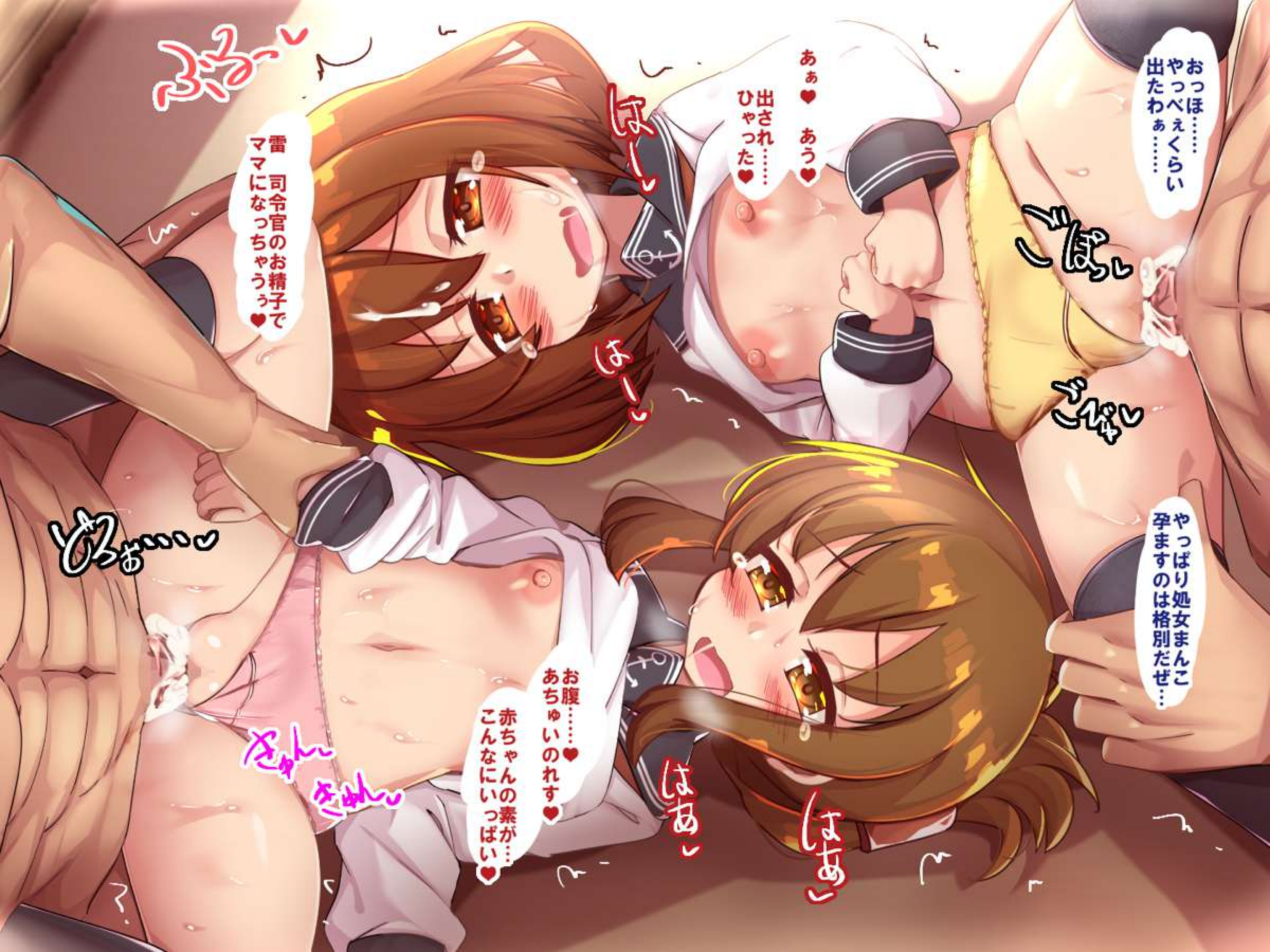
はあ

はあ

はあ

ぽん

ぽん



呆けているところ悪いけど
これくらいじゃまだまだ
休ませてあげないよ

次は俺が電ちゃんのおまんこ使うんだから

おまんこ

せーす
しーん

ドク

ドク

は
は
は

おまんこ

ドク

ドク

雷ちゃんはこっちだよ

そのちびっ子まんこを
ぶち犯してあげるからね

ふー……
千歳と千代田の
ダブルパイズリは
最高だったなあ

だなー……
一人でも圧巻の爆乳に
左右から挟まれたらちんぽが
飲み込まれちゃうんだもんなあ

いつものように艦むすと
性欲処理を終えた俺達は
足取り軽く執務室に戻ってきた

すると——

あれ？
加賀さん？

どういうわけか
加賀さんが執務室の
ソファで眠っていたの

す

いつもは仏頂面なのに
可愛らしい寝顔で
すやすやと……

どうしたんだ？

俺達は鏡を合わせたかのように
揃って首を傾げた後に
これまた揃って「あっ！」と
声を上げた

そういえば
今日の三時に……

ああ……
明日の出撃のことで
呼び出してたんだ……

すっかり忘れていた
時計を見ると既に
四時を回っている

生真面目な彼女のこと
ここで律儀に俺達を待ち続け
日頃の疲労が祟ったのか
うっかり転寝しちゃったの
だろう

やべえよやべえよ
この人怒らせると
一番怖いんだよな

彼女は鳳翔さんらと同じく俺の着任当初から世話になっっている人だ

俺が加賀さんと敬称をつけて呼ぶ数少ない艦むすである

その嚴かな雰囲気も相俟ってどうにも頭の上がらないところがある俺としたことが未だに手を出せずにいる

その彼女が今俺の目の前に隙だらけの姿を晒している……

こ　これはチャンスだ！
ち　よっとイタズラを
す　るくらいなら

バ　でも
レ　したら後が怖いぞ



もし俺が一人だけだったら
ここで尻込みしていただろう

だが俺は今
一人じゃない

俺と2号は
どちらからともなく
視線を交わしてから
ひとつ頷いた

既に意思統一は
できているようだ

俺達は細心の注意を
払いながら加賀さんの
衣服を脱がしていったの

うおお……!!
でっけえ……!!

俺達はこくりと
生唾を呑んだ

むいゃ……

前々から立派なものを
お持ちだろうと思っ
てはいたが
こいつは想像以上だぜ……

やべっ
股間がもう
パンパンだ

とた
とん♡

俺達は加賀さんの
ナマ乳をオカズにして
逸物を扱き始めた

本当は
もっと色々したいところだが
起こしちまうリスクを考えたら
見抜きで我慢するのが賢明だ

はあ はあ……

い今 加賀さんが
目を覚ましたら
俺達どうなるかな……？

さあなあ……
無言爆撃か……

案外
大して気にしないって
こともあんじゃね？

シク

シク

シク

シク

おっかし
目のおっぱい丸出しの女が
オナニーしてはどうか
ってのはどうなんだ？

この時点で既に
バレたらやばいんだし
どうせ怒られるなら
より楽しんだ方が得ってもんだ

意を決して
俺は我慢汁塗れの龟头を
加賀さんの乳房に押しつけた

コウ

シク

コウ

コウ



おおっほ……！
むにむにの乳肉
気持ちいい……！

加賀さんに起きる気配が
ないのを確認してから
俺は再びセンサーをコク

んん……

おはれ

お前っ……
なんちゅう大胆なことを

へへ
羨ましいなら
お前もやってみな

よーし
じゃあ俺はごっちゃん……

2号は薄く開いた
加賀さんの唇に赤黒い
亀頭を擦りつけた

ちゅん

くう……！
ぶにぶにの感触の
唇……！

この微妙な気持ちよさが
なんとも……！

おおっ……！
いい度胸してん
じゃねえか

さすがは俺だな！

ん
んん……

んんん……

!?

んんん……

加賀さんがもぞりと
身じろぎをして
俺達は全身を強張らせた

そのまましばらく
息を潜めて様子を窺うが
どうやら目を覚ましたわけでは
ないらしい

セー
かっ
つたか……

ハラハラドキドキだが
このスリルが興奮に乗せられて
普段のセックスでは味わえない
快感が俺達の頭に芽生えていた

んんん……

!?

俺達は極力物音を
立てないようにしながら
ちんぽを扱き続ける

まさか加賀さんも
寝ている間にこんな堂々と
オカズにされてるとは
思わねえだろうなあ

普段はえっちに誘っても
冷たい目であしらわれて
終わりだもんなあ
いつかはこういうこと
してやりたいと思ってたぜ





俺も加賀さんに
思い切り顔射してやる……!

もはや
加賀さんが起きたらどうしよう
なんて懸念は吹っ飛んでいた

俺達の願いはただひとつ
彼女を欲望の白濁液で
どろどろに穢してやることだ

うっく……
そろそろいきそうだ……

このまま加賀っばいに
ぶっかけるぞお……!

いっ♡

いっ♡

いっ♡

いっ♡

いっ♡

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

はあ……

やってやったぜ……!

ぬさ……

どろり……

やってやったな……!

誰にでもなく
勝ち誇る俺達だが
そんな暇はない

加賀さんが起きる前に
精液を綺麗に拭き取って
証拠隠滅を——するの
が正解なんだろう

すっかし
俺達が
深みに
ハマる
ものだ
った
すっかし
俺達が
深みに
ハマる
ものだ
った
気分が高揚していた
行動は更なる

おうよ
毒を食らわば皿までって
言うもんなあ……？

やっぱり……
こんなもんじゃ
満足できねえよなあ？

俺達は不敵に
笑い合った

そうと決まりや
早いとこしねえとな

俺達はじゃんけんをして
どっちの穴を使うか決めてから

加賀さんの身体を二本の
ちんぽで挟み撃ちにした

俺達は加賀さんを
間に挟むようにして
二人で抱きかかえた

へっへっへ……

加賀さーん？
早く起きないと
両方の穴に肉棒が
ぶっ刺さっちゃうですよー？

ぐいっ

おやおや
返事がないなあ

これはつまり
どうぞご自由になって
ことじゃないか？

確かに！
ンじゃあ同時に
ぶち込むとするか

にいのち……

ぐいっ……

さんっ!

あくっ……♡

俺達は加賀さんの
メス穴とケツ穴に
容赦なくちんぽを挿入した

すると加賀さんの身体が
電流を浴びたかのように
びくんつと震えたのだが
これでもまだ起きないらしい

膣穴の具合はまるで
生娘のように窮屈で
まさかこれ未使用か……?

あ
あ

ひゅっ

あぶーん

ずん

なん
なく……
なに……?
?

パチュレ

パチュレ

グチュレ バチュレ

俺の目の前で加賀さんの
目蓋がゆっくりと開かれた

まあ……さすがに
ここまでヤったなら
そりゃ起きるわな

とはいえ一度
ちんぽを突っ込んだら
射精もせず抜けるわけがなく
俺達は開き直って加賀さんを
犯し続けた

提督……？
いったい何を……んっ♡

やあ
おはよう加賀さん

今 加賀さんのおまんこケツ穴に
ちんぽが入ってるんだけど
わかるかな？

おまん……
ちん……あっ♡

あっ♡あっ♡
あぁあっ♡あっ♡

自分の状態を理解したら
本格的に意識が覚醒したのか
加賀さんは途端に喘ぎ出したのか

ピチュ♡

ピチュ♡

グチュ♡バチュ♡

あ あなた達……

人が寝ている間に
こんなことをしていいと

あっ……あひっ
んんっ♡

えー？
なに加賀さん？

ちゃんと喋ってくれなきゃ
わかりませんよ？

だから……あっ
んぐっ……♡

あはは♡
あはは♡

ずち♡

ずち♡

なんだなんだ
普通の様子からして
普通の子もお堅い女かと
こっちは方も随分と
思っただらな
感じやすいんだなあ

加賀さんに力づくでどうこうできる
余裕がないと察した俺達は
ますます調子に乗って腰を振った

大人しくしててねー

加賀さんは今
俺達の肉オナホちゃん
なんだからさあ

だ 誰が……やんっ♡

おっ可愛い声
もっと聞きたい
な!

あひっ♡
おんっ♡♡

あひっ♡

びっ

あひっ♡

ずいっ♡

あひっ♡
あひっ♡

ずいっ♡

ずいっ♡

もう……
いいから……
早く終わらせてください

射精すれば……
気が済むのでしよう……♡

あれ……？
思ったよりすんなり
受け入れるんだ……？

あなたのような人の
部下である以上……
いつか襲われる覚悟は
していました……

居眠り中に
二人がかりで……
予想外だけど……んあ♡

はあ

はあ

びん

びん

2
3

な　なーんだ！
そういうことは早く
言っただけ良かったなあ

そうとわかっていれば
即日夜這いをかけていたのに

か　勘違い
しないで……

あなたは酷い変態ですが
それでも私達の提督です……

そのあなたに
臍を曲げられると困るから
仕方なく身体を許して
だけ……んっ♡はうっ♡

2
3

まあ要するに加賀さんも
本当は俺達のちんぽが
待ち遠しかったってことでしょ？

ち 違いま すうっ♡

またまたあ
そうでないならこんな
びしょ濡れまんこに
ならないって

ちんぽ♡

ちんぽ♡
ちんぽ♡
ちんぽ♡

んぐ♡

ズブ
ズブ

ズブ♡

ずちゅ

じりゅ

んぐ♡

ズブ

周りの子が俺に
ご奉仕しているのを尻目に
私はいつ手を出して
くれるのかしらって
やきもきしてたんだろお？
加賀さんの乙女心に
ごめんよ

お詫びに今日は
嫌って言うほど
可愛がってあげるよ！

ほら加賀さん
舌出して舌
キスするぞ

ん はい……♡

んちゅ♡
ちゅ♡

どきどき
どきどき

んちゅ♡

んちゅ♡

んちゅ♡

ズブズブ

ズブ

ズブ

ずちゅ

じりゅ

ほほお……
あの加賀さんが
これほど従順になるとは

艦むすはちんぽに
勝てない説
立証だろもう

加賀さん
キスするのも
初めて？

そう ですよ……♡

こうやってペロチュエー
しながらハメハメするのは
また一段と気持ちいなる？

ズブ

ズブ

ズブ

ズブ

ずちゅ

じりゅ

あー

はあ

ちゅ

れる

は
気持ちはいい……♡
しれませんが……♡
かもしれませんが……♡

んちゅ♡ ちゅう♡

おっ 積極的……

あー可愛いなあ

いつもは綺麗とか美人とかって
印象だけど今の加賀さんは
ひたすらに可愛い……

よっし!
加賀さんも乗ってきた
ところでもそろそろ
一発目イっとくかあ!

加賀さんもかなり
来てるでしょ?
二穴同時射精で
アクメしちゃおうね!

か 勝手に……
してください♡

えわっ♡

あぐん♡

ぷん

ぱん
ぱん

ぱん♡

ひん
ひん

ぷん

そうじゃないだろお?
俺達が言ってる欲しいからわかるよね?
加賀さんは賢いからわかるよね?

う
く……♡

2
3



2
3

くもあ

あー♡

あー♡

♡♡♡♡♡

私のおまんこ
お尻に……
熱いのをたくさ……

あ♡

せ 精液……
出してくださいっ♡

だっ♡

どっ♡

どっ♡

どっ♡

どっ♡



うあっ♡

ああっ♡

ふおお……!!
絶頂まんこの締めつけ
よすぎるよ加賀さん……!!

けツ穴も……!!
根本までぎゅうぎゅう
搾られて……!!

こんならめっ♡
凄いのっ……あふう♡

せ精液っ♡
出しすぎですっ……♡

2
3

びくっ♡

あっ♡

あっ♡

んあっ♡

びくっ♡

びくっ♡

ドムッ

ドムッ

びゅっ♡

びゅっ♡

びゅっ♡

はは
ーっっ
♡♡

どうだい
加賀さん

これが
メスの悦びって
やつだよ

もう忘れられそうに
ないだろう？

べ別に……♡
これしき……♡

はー♡

はー♡

がぼっ♡

んんん♡

がわん♡

ふあっ♡
まだ出て……♡

おほっ……臆肉が
きゅんきゅんしてらあ

下のお口は正直とは
よく言ったものだよなあ

びん♡

どろろ……

さて……
加賀さんはこの程度じゃ
完堕ちしないだろうし
まだまだ犯さないとな

俺と2号は
ポジションを入れ替え
再び加賀さんの穴二つが
肉棒で満たされる

執務室は今日も
肉欲の坩堝と化するのだった

最初こそ自分の分身に
何かと腹を立てていた俺だが
思い返せば結構楽しかった
かもな……

鳳翔さんも言っていたが
もし俺に双子の兄弟でも
いたらこんな感じかなって

だがそれも
もう終わりだ

今だから言うが
少し寂しいぜ……

あれから一週間

俺達にとっては一生
忘れられないであろう
七日間が過ぎ……

八日が過ぎ……

九日が過ぎ……

そして

十日目になっても
俺の分身状態は
続いたままだった

なあ……
薬の効果は一週間で
切れるって明石は
言ってたよな？

ああ……
そのはずだけど
どうなってんだ
こりゃ？

さすがにこれは
おかしいという事で俺達は
明石の部屋へ乗り込んだ

あれ？
提督 まだ二人の
ままなんですか？

見ての通りだよ

薬の効果は一週間で
切れるんじゃないのか？



んんー……
変だなあ……
んー………？

あっ……
そういえば

提督に元気になって
もらおうと思って
薬の基本量を
十倍にしたんだっけ……

イへい

それで
効果時間も十倍に
伸びたの……かも？

じゅ
十倍だあ!?



啞然と半口を開けた後に
俺達は揃って吹き出した

あはは
なんだかんだ言っても
仲いいですよねえ二人とも

まさか……
あと何十日もお前の
暑苦しい顔を拝まにや
ならんとはな

こっちのセリフだ
まだまだ当分は
傍をちよろちよろされると
思うと気が滅入るぜ

ふんっ

ふんっ

おいこら
呑気に笑ってんじゃねえ

そもその原因は
お前だろ……あつ
そうだ

十倍の量で間違えたんなら
お仕置きも十倍にする
必要があるんじゃないか？

え？

おお
確かにそうだなあ

明石もこんな大失態を
やらかした自分を
許せないだろうし

ここは心を鬼にして
正当な罰を与えてやるのが
提督の務めってもんだな

え
ええ!?

ちよ ちよっと
待って下さい！
その理屈はおかしいです！

井明を叫ぶ明石だが
俺達はダブルで
聞こえないフリ

異をなぞあり

薄ら笑いを浮かべた俺達は
左右からじりじりと明石に
にじり寄っていく

いっ
いーやー！

さあて……
覚悟はいいか？

手始めにどうして
くれようかなあ



こうして――

俺達の提督ライフは
もうしばらくの間
二人で過ごすこと
なるのだった

シリーズ





























































































































































































